



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2842 号 2016.2.2 発行

### 県HP、スマホ用に自動変換 写真、イラスト多用しリニューアル



東京新聞 2016年2月2日 栃木  
一新された県のホームページ

県は1日から、ホームページ（HP）を一新した。各種のページには写真やイラストを多用。スマートフォンで閲覧した際、専用画面への自動変換も可能となった。

トップページには、華厳の滝（日光市）など県を象徴する風景や建物の写真を掲載。各部局のフェイスブックやブログの

最新情報も写真付きで掲載している。大規模災害時には、HPの閲覧が集中することを考慮し、災害情報に特化した文字のみの軽量版に切り替える。

高齢者や障害者などへの利便性向上のため、音声読み上げ機能や振り仮名機能も導入。イベントや講座、講演などの検索機能も充実させ、分野別や開催地別、キーワードでの検索や1カ月単位のカレンダー表示もできる。

### チョコレートの魅力紹介 県庁でフェス



茨城新聞 2016年2月2日  
多くの来場者でにぎわう「MITO 世界チョコレートフェスティバル」のチョコレート展=県庁

チョコレートの魅力を紹介する「MITO 世界チョコレートフェスティバル」が1日、県庁で開幕、会場では世界各国のチョコレートの販売やパネル展示が行われている。同フェスは12日まで開かれる。

同フェスは4回目。1世帯当たりのチョコレート購入額が毎年全国上位に入る水戸市を「チョコレートの街」として売り出すのが狙いだ。県庁11階ロビーにはフランスやベルギーなど10カ国計80種類のチョコレートが並び、全国の知的障害者らによる手作り商品も販売されている。

スイスのチョコレートを購入した沢田遥菜さん(24)は「身近で世界のチョコを購入できるのはうれしい」と笑顔を見せた。27日にはイオンモール水戸内原店で世界一長い62メートルのチョコレートロールケーキを作るイベントも行われる。

社会福祉法人善光会、ロボットによる介護レクリエーションの有効性の検証を実施

社会福祉法人善光会 2016年2月1日

社会福祉法人 善光会(住所:東京都大田区東糀谷)では、東日本電信電話株式会社 (NTT 東日本) による映像とロボットの連動による介護レクリエーションの有効性の検証を、東日本の施設として初実施いたしました。

特別養護老人ホーム バタフライ ヒル細田(住所:東京都葛飾区細田)において、テレビ映像とコミュニケーションロボットを使用したレクリエーションを取り入れ、施設ご利用者様と職員における効果の検証を実施致しました。レクリエーション内容の充実や、認知症対策、職員の負担軽減を目指した本取り組みにより、9割の職員が負担軽減につながったと回答し、専門家による効果検証で、ご利用者様においてもレクリエーションにおける発言頻度・交流・参加意欲等に高い効果が示されました。

善光会では介護施設の人手不足の解消、介護負担の軽減、介護サービス利用者の自立支援の促進などを目的とし、介護ロボット研究室を設置、積極的に機器の試験的導入を行っています。今回の検証を行った特別養護老人ホーム バタフライ ヒル細田においては、人の思いやりやコミュニケーションの力とロボットの安全性・機能性を複合し、介護のクオリティ向上を目指す施設として「ハイブリッド特別養護老人ホームプロジェクト」と題し、特定ユニットに各種介護ロボット機器を集中的に導入する計画を進めております。介護オペレーションを詳細に分析し、効果的に機器利用を実施することにより、介護職員による介護業務時間を25%削減することを目標としております。

■社会福祉法人 善光会とは 東京都内で特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、グループホームなどを運営する法人。

## フジ/長野県飯山市に「フジすまいるファーム飯山」を設立

流通ニュース 経営戦略 2016年02月01日

フジ(愛媛県松山市)は1月29日、農業と福祉の連携を目指したフジすまいるファーム飯山を長野県飯山市に設立した。

フジは、長野県飯山市が進める「農・福連携事業」の主旨に賛同し、グループ3社で共同出資を行った。

フジすまいるファーム飯山では、障害者自立支援法に基づく就労継続支援としての施設「就労継続支援A型事業所」として、飯山市で農産物の生産や加工、販売を行う。

事業所開設により、一般企業への就職が難しい障がい者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じ知識と能力の向上に必要な訓練など、障がい福祉サービスを供与する。

9月に事業を開始し、従業員は約20名の予定。

遊休農地や施設などを有効利用して事業を行うことで、担い手の減少する農業の問題解決と飯山市の農産物の販路拡大に寄与する。

飯山市では、昨年からの障がい者の農業と農産加工などの就労を促進し、産業化を図る「農・福連携事業」を進め、農業に障がい者を継続雇用することで、自立を支援している。

■フジすまいるファーム飯山

事業内容:障がい福祉サービス事業

所在地:長野県飯山市大字照岡485-イ

資本金:500万円

出資会社:フジ、フジデリカ・クオリティ、フジ・アグリフーズ、フジ・ハートデリカ

## 脳神経の隙間に謎の構造物 京産大発見、機能解明へ期待 京都新聞 2016年2月2日

脳の神経で情報伝達物質が通過する隙間「シナプス間隙(かんげき)」にタンパク質でできた構造があることを、京都産業大総合生命科学部の浜千尋教授や中山実助教らがショウ

ジョウバエで突き止めた。シナプス間隙の機構はほとんど分かっておらず、脳機能の解明につながるという。米学会誌に発表した。

浜教授らは既に、シナプス間隙にタンパク質「H i g」があり、神経伝達物質「アセチルコリン」受容体の量を制御していることを突き止めていた。研究では、H i g と似た構造を持つタンパク質を探し、より詳細にシナプス間隙の仕組みを調べた。

結果、シナプス間隙で構造が類似した別のタンパク質を発見し「H a s p」と名付けた。超高解像顕微鏡などで観察すると、2種類のタンパク質は別々の部位に存在。構造物を形成していることが示唆された。またH a s pがなければ、H i gは存在できないことも分かった。

浜教授は「構造物は神経での情報伝達を助けているのかも知れない。さらに構造物の詳細を探究していきたい」と話している。

## 「妊娠していたら絶対渡航しない」女性アスリートに不安 ジカ熱拡大の中、五輪テスト大会

共同通信 2016年2月1日

ジカ熱の感染が中南米に拡大する中、レスリング女子のリオデジャネイロ五輪テスト大会が1月31日まで2日間、リオ市西部バーラ地区の五輪公園の体育館で行われた。選手、関係者はウイルスを媒介する蚊に刺されないよう注意を払うなど、不安を抱えての出場となった。

妊婦が感染すると、知的障害を伴うこともある小頭症の子どもが生まれる可能性が指摘される。世界選手権を2連覇した75キロ級のアデリン・グレー選手（米国）は「妊娠していたら絶対に渡航しなかった。今は五輪に集中しているから来た」と女性アスリートの不安を代弁した。

蚊は水たまりで繁殖するため、コーチ陣からプールでの遊泳は禁じられたという。虫よけクリームを塗り、競技以外では常に長袖の服を着るなどの予防策を取った。

4選手が出場した日本の木名瀬重夫コーチは「日本で虫よけスプレーを買って選手に配った。運営側からもクリームが渡された」と対策を説明した。63キロ級の源平彩南選手（至学館大）は「蚊に刺された人はいるが、発熱などは特にな」と話した。

## WHO ジカ熱 緊急事態宣言



NHK ニュース 2016年2月2日

胎児への影響も指摘され、中南米を中心に感染が急速に拡大しているジカ熱について、WHO＝世界保健機関は、感染がほかの地域にも広がるおそれがあるとして、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。

蚊が媒介する感染症、ジカ熱の患者が中南米を中心に急速に広がっていることを受けて、WHOは、日本時間の1日夜から、各国の専門家を電話でつないで緊

急の委員会を開き、対応を協議しました。

その結果についてWHOのチャン事務局長が日本時間の2日未明、スイスのジュネーブにある本部で記者会見し、感染がほかの地域にも広がるおそれがあるとして、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。

WHOによりますと、ジカ熱は、去年5月にブラジルで感染が確認されてからこれまでに中南米を中心に25の国と地域に広がり、感染者は、今後400万人に上るおそれがあるとしています。

ジカ熱は、新生児の脳が先天的に小さく、脳の発達に遅れがみられる「小頭症」との関わりも指摘されていますが、予防のワクチンなどはありません。小頭症との関わりについてWHOのチャン事務局長も会見で「科学的にはまだ証明されていないが強く疑われる」と述べました。

またチャン事務局長は「妊娠している女性は感染が拡大している地域への渡航を延期することが望ましい」と述べたうえで「やむを得ず渡航する場合は、長袖や長ズボンを着用し、外出を控えるなど対策を講じてほしい」と呼びかけるとともに、各国に流行の拡大を防ぐための措置を徹底するよう勧告しました。

#### **特に妊婦は渡航控える選択肢も**

WHO＝世界保健機関が緊急事態を宣言したことについて、感染症の問題に詳しい国立国際医療研究センターの大曲貴夫国際感染症センター長は「日本国内には、ジカ熱の患者はいないし、感染が拡大するおそれがあるわけでもない。ただ、今回のWHOの宣言を受け、ブラジルなどの流行地に渡航するかどうかをより慎重に考えるタイミングに来ている。特に妊婦については本当に必要な渡航なのかをしっかりと考えたうえで、控えるという選択肢も検討することが望ましい。また流行地に向かう方は肌の露出を控え、虫よけスプレーを使うなどして蚊に刺されない対策を徹底してほしい」と話しています。

#### **症状と対策**

ジカ熱は「ジカウイルス」を持つ蚊に刺されることで発症するウイルス性の感染症です。感染すると3日から12日間ほどの潜伏期間の後、発熱や頭痛、それに関節痛などの症状を引き起こします。ワクチンや特効薬はなく、対症療法が中心となりますが、同じように蚊がウイルスを媒介とする「デング熱」と比べると比較的症状は軽く、多くの場合1週間ほどで回復します。また感染しても実際に症状が出る人は4人に1人程度という報告もあります。

ウイルスを媒介するのは主に熱帯や亜熱帯に生息する「ネッタイシマカ」や、日本にも生息する「ヒトスジシマカ」です。去年5月以降にブラジルで感染が確認されて以降、中南米を中心に24の国や地域に広がり、アメリカやヨーロッパでも流行地を訪れた人たちが帰国後にジカ熱を発症するケースが報告されています。

一方で、ジカ熱は▽患者の血液からウイルスを検出できる期間が僅か数日なことや▽他の蚊を媒介とする感染症と症状が似通っていて区別が難しいため、正確な患者数を把握するのは難しいのが実態です。

日本国内では3年前に当時、ジカ熱が流行していたフランス領ポリネシアから帰国した27歳の男性が発症するなど、これまで渡航歴のある3人がジカ熱と診断されていますが、国内で感染した例はありません。

専門家は仮に流行地で感染した人が帰国したとしても、国内では、冬の時期、蚊は、活動していないため感染が広がる可能性は低いと指摘しています。一方で流行地に渡航する場合は、蚊に刺されないよう、▽皮膚を露出しないように長袖を着ることや▽虫よけのスプレーの使用、それに▽蚊帳の中で寝るなどの対策を徹底することが必要だとしています。

#### **小頭症との関係は**

ブラジルでは、ジカ熱の流行と同じ時期に「小頭症」の子どもが相次いで報告され、関連が指摘されています。「小頭症」は脳の発達が遅れることで知的障害などを引き起こす病気です。

病気の主な原因は▽遺伝子の異常や▽妊娠中に母親が何らかのウイルスに感染することで、赤ちゃんにも感染してしまうことなどです。ブラジルではジカ熱の流行前に報告された小頭症の患者が▽2010年は153人▽2011年は139人▽2012年は175人▽2013年は167人▽2014年は147人だったのに対し、去年10月以降ではこれまでに4000人以上が報告される事態となっています。

▽亡くなった小頭症の赤ちゃんの血液や▽出産後の母親の羊水からジカウイルスが検出されていることからWHO＝世界保健機関は「関連が強く疑われる」としています。

またブラジルの保健当局によりますと「小頭症」になる最も大きなリスクとして妊娠初期のウイルス感染が挙げられています。詳しいことはまだ分かっておらず、引き続き、原因やリスクを明らかにする研究が行われています。世界的に感染拡大への危機感が高まる中、流行地への妊婦の渡航を控えるよう呼びかける国が相次ぐなど、「ジカ熱」の流行は社会に大きな影響を与えています。日本の国立感染症研究所は「小頭症との関連について詳細な調査結果が出るまで、可能な限り妊婦の流行地への渡航は控えたほうがよいと考える」とする見解を発表しています。

#### WHO 緊急委員会とは

WHO＝世界保健機関は、2007年以降、流行が拡大するおそれがあると判断した感染症について、緊急の委員会を開いて対応を協議しています。

協議では、ウイルスの感染状況のほか、国や地域を越えて感染が広がるなど、深刻な状況だと判断した場合、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言します。

WHOは、宣言を通して感染のさらなる拡大を防ぐために各国がとるべき措置などを勧告し、感染症への警戒を呼びかけます。今回の委員会のメンバーは、WHOが任命したウイルス学や虫が媒介する感染症に詳しい専門家のほか、各国の保健当局の担当者など12人で構成されています。感染症への警戒を呼びかける緊急事態は、これまでに、▽2009年の豚インフルエンザのほか、▽おととし、ポリオやエボラ出血熱の感染が拡大した際に出されています。

#### 講演会：避けて語ろう 障害児の思春期と性、理解深める 産婦人科医・河野さん、生駒で / 奈良 毎日新聞 2016年2月1日

##### 「丁寧に説明、子供は必ずわかってくれる」

障害児の思春期と性について理解を深めようと、広島市の産婦人科医、河野美代子さん（68）の講演会が31日、生駒市元町1のコミュニティセンターであった。福祉施設の職員など200人以上が聴き入る中、河野さんは「性はいやらしい、恥ずかしいものではない。丁寧に説明すれば、子供は必ずわかってくれる」と話した。

講演は、障害児の支援に取り組む生駒市の社団法人「無限」が主催。思春期を迎えた子供を持つ保護者から「異性との距離感がとれない」「体の変化に子供自身が戸惑っている」などの相談を受けたことがきっかけだった。河野さんは性教育に取り組んでおり、「さらば、悲しみの性」などの著書がある。

河野さんは障害児の性について「体と心の発達がアンバランスで、体の成長に耐えられず体毛を抜いてしまう子供もいる」と説明。心の成長に伴って性教育を行う重要性を指摘した。

一方で「性教育は子育てそのもの」と述べ、「子供から『どこから産まれたか』などと質問を受けた時は丁寧に説明することが大切」と強調。「大人は性に対していやらしい、後ろめたい思いがあるが、子供にとっては自然なこと。自分で答えられなければ、絵本を見せるのもいい」とアドバイスした。

障害者支援施設で勤務する小島知美さん（35）＝生駒市＝は「人前で自分の体を触る10代前半の男の子にどう接したらいいか悩んでいたが、時間や場所を考えれば決していけない行為ではない。保護者と一緒にしっかり説明していきたい」と話していた。【塩路佳子】

#### 助成5団体を決定 愛の事業団、心身障害児者の療育で 福島民友 2016年02月02日

福島民友愛の事業団（理事長・五阿弥宏安福島民友新聞社長）は1日、福島市の福島民友新聞社で本年度の「心身障害児者の療育に関する助成」審査会を開き、5団体への助成を決めた。



### 助成団体を審査する（右から）安部事務局長、内山副所長、五阿弥理事長

本年度は県内24団体から応募があった。着物の古布を再利用した小物を作り、高い評価を受けている「ハッピーロード」（会津若松市）、特産のソバを使ったそば打ちに挑戦する「ふれんどりー大玉」（大玉村）などが選ばれた。

五阿弥理事長、理事の内山清一県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター副所長、評議員の安部光世県社会福祉協議会事務局長が厳正に審査した。

助成金の贈呈式は24日、福島民友新聞社で行われる。



### 篠山の10社会福祉が連携 情報共有で地域支援

神戸新聞 2016年2月2日

兵庫県篠山市内の社会福祉法人10団体が1日、連絡協議会を設立した。高齢化が進み、介護予防教室などを地域が担う流れにある中、社会福祉法人が専門性を生かして地域を支援するのが狙い。

高齢者、障害者、児童、地域を事業の対象としている各福祉法人が参加。愛称は「ほっとかへんネットささやま」と名付けた。



### 10法人が参加した篠山市社会福祉法人連絡協議会の設立総会＝四季の森生涯学習センター

設立に先立ち昨年6月には、災害時に高齢者や障害者が安全に避難できる受け入れ先を提供するとの協定を篠山市と結んだ。

今後は、各まちづくり協議会などが開く介護予防教室「いきいきサロン」の運営支援を担う。また、自治会長や民生委員らが中学校区ごとに集まり課題を話し合う

「地区福祉会議」に参加。各地の実情を把握し、地域に根付いた活動を目指す。そのほか、地域の防災訓練に参加し、災害時の福祉支援についての活動も展開する。

1日、同市網掛の四季の森生涯学習センターで設立総会が開かれ、今後の事業計画などが報告された。同協議会長を務める社会福祉法人和寿園の明山重則施設長は「まずは各法人がどんな活動をしているか情報共有し、市民の目に見える形で貢献していきたい」と話した。（井垣和子）

### 2016年社会・精神・介護の福祉士国家試験終わる 問題を全文公開



福祉新聞 2016年02月01日 福祉新聞編集部  
第28回社会福祉士・介護福祉士国家試験が1月24日、第18回精神保健福祉士国家試験が23・24両日に行われ、社会福祉振興・試験センターは27日、受験者数の速報値を明らかにした。

受験者数は社会福祉士が4万4765人、介護福祉士が15万2573人、精神保健福祉士が7173人。いずれも前年並みだ。介護福祉士の実技試験は3月6日に行う。

### 3福祉士国歌試験

同センターは、社会福祉士の専門科目に不適切問題が1題あることを試験当日に発表。その問題は解答する必要はなく、全受験者に得点する措置を取ることを説明した。

介護福祉士試験については、経済連携協定（EPA）による外国人が受験する場合はル

び付きの試験問題を使うことを認めてきたが、今回からは日本に帰化した人などにも認めることとした。

24日は雪の影響で交通機関に乱れが生じたことから、長崎県、鹿児島県の複数の試験会場で試験開始時刻をそれぞれ30分、1時間遅らせた。

それに伴い、試験開始後の途中退席を全国の試験会場で認めないこととした。途中退席した受験者が、試験開始時刻の遅い会場の受験生に試験問題を通信機器で伝達することを防ぐためという。

合格発表は社会福祉士、精神保健福祉士が3月15日、介護福祉士が3月28日。

## 福岡県が子どもの貧困対策計画 公募意見、異例の105件【福岡県】

西日本新聞 2016年02月02日

県は1日、本年度中に策定する「子どもの貧困対策推進計画」（2016～20年度）の骨子を県議会子ども・子育て支援調査特別委員会に報告した。県が昨年11～12月に実施した計画素案への意見公募（パブリックコメント）には、県の公募としては異例の多さとなる計105件の意見が寄せられており、これらを反映させるなど最終調整を踏まえて、2月議会に計画の確定版を報告する。

計画は、国が2014年8月に閣議決定した「子供の貧困対策大綱」を踏まえて策定。「子どもの貧困率は全国数値よりも上回っていると推測される」として（1）生活保護世帯の子どもの高校等進学率（87・1％）（2）同高校等中退率（6・6％）（3）同高校等卒業後の就職率（42・5％）（4）児童養護施設の子どもの大学等進学率（14・7％）などの改善を目指す。

重点方針として（1）乳幼児期からの一貫性のある支援（2）緊急度の高い子どもに対する着実な支援（3）地域の関係者が一体となった支援—を掲げ、施策を打ち出す。

意見公募は、スクールソーシャルワーカーの増員や返済不要の奨学金制度など、教育関連施策の充実を求める内容が半数近くを占めたという。県保護・援護課は「意見の数はかなり多い。子どもの貧困問題への関心の高さを感じる」と話している。

## 香山リカのココロの万華鏡 人間性を欠いた笑顔 /東京 毎日新聞 2016年2月2日

東京都大田区で3歳の男の子が同居する男性から暴行を受け、死亡する痛ましい事件が起きた。男性は「しつけ」と称して虐待を繰り返していたという。一部の報道によると、男性は男の子を正座させ「笑いながらベランダを指さし、『あっち行け。死んでしまえ』と脅した」という。

もちろん、虐待はそれ自体許されるものでないが、私がとくに気になったのはこの「笑いながら」の部分だ。幼い子どもに苦痛を与えながら、なぜ笑えるのか。その心理は想像もつかないが、同じような“笑い”を何度か見たことがある。

2004年、イラクのアブグレイブ刑務所で、捕虜や戦犯となったイラク人兵士に対し米国人兵士が虐待していたことが発覚した。人間性を陵辱するような拷問を行い、捕虜たちと写真に納まる米国人兵士の多くは満面の笑みをたたえていた。

私は大声で在日コリアンなどへの差別や排除を叫びながら公道を練り歩く、いわゆるヘイトスピーチデモへの抗議活動にときどき出向くが、いつも理解できないのは、デモに参加する人の多くが楽しそうに笑っていることだ。「差別反対」などと書かれたプラカードを手には抗議する人たちや、不安そうに様子を見ている外国人らしき人たちに笑顔で手を振るデモ参加者もいる。書くのものはばかられるような差別的な言葉や憎悪の表現を口にしながら、なぜそこまで晴れやかに笑ってられるのか。その言葉と表情のギャップに、私はいつもめまいがしそうになる。

虐待、暴力、差別。人間として許されないこういう行為に手を染めるとき、人はどうい

う表情を作ってよいのかもわからなくなり、思わず笑ってしまうのだろうか。あるいは、人間としての分別も良心も捨てた行為を自分でも止められず、途方に暮れて「笑うしかない」という境地になるのか。被害者は、自分が受けている暴力や差別に傷つき、さらに相手の笑顔に傷つく、と二重のダメージを受けることになるのだ。

いずれにしても、これほど恐ろしくおぞましい笑顔はない。私たちは日ごろ「笑顔は人をハッピーにする」と信じている。しかし、「人間性をかなぐり捨てた笑顔」があることも忘れてはならない。

不祥事で記者会見を開く政治家は、いまのところかろうじて笑っていない。もしそういう人たちが「やりましたよ。ハハハ」と笑顔になったら、と考えると、そのときが社会の終わりと考えてよいかもしれない。(精神科医)

### 社説：幼児の虐待死 防ぐ取り組み地域から 信濃毎日新聞 2016年2月2日

幼い子が虐待を受けて命を落とす痛ましい事件が続いている。“密室化”した家庭で起きる虐待をどう防ぐか。難しさをあらためて感じさせられる。だからこそ、地域や社会で何ができるかを考えたい。

東京都大田区で先週、3歳の男児が激しい暴行を受けた後に死亡した。同居していた母親の交際相手の男から、1時間半にわたって、頭に「かかと落とし」をされたり、投げられたりしたようだ。

身長195センチ、体重120キログラムの男が振るう暴力に、男児はなすすべがなかったに違いない。どれほど恐ろしかったか。母親も暴力を受け、興奮した男を止められなかったという。

男は、事件前にも「しつけとして平手打ちをした」と供述している。ただ、区や児童相談所に虐待の相談や通報はなかった。

埼玉県狭山市では先日、3歳の女児が顔にやけどを負ったまま放置されて死亡した。母親と同居の男が、熱湯をかけたり、両手を縛って拘束したりする虐待を繰り返していた疑いがある。

半年ほど前、近所の人から「泣き声がする」と警察に通報し、署員が家を訪ねたが、虐待の形跡を確認できなかったという。警察は児相に知らせていなかった。

核家族化が進み、隣近所の付き合いも薄れて、外の目が届きにくくなったことで、虐待が深刻化したと指摘されてきた。自分で身を守れない幼い子が、親や身近な大人の暴力、あるいは育児放棄によって、命の危険にさらされている現実がある。

厚生労働省のまとめでは、2003年度からの10年間に虐待で死亡した子どもは540人余。その75%を3歳以下が占めている。最悪の事態に至る前に、どうにかして救いたい。

子どもは、親だけでなく社会が守り育てるべき存在だ。市町村や児相をはじめ関係機関が連携して取り組みを強めるとともに、住民それぞれが自分の問題として受け止め、力を合わせたい。

経済的な困窮が子どもへの虐待につながることも多い。近所の人と日ごろから言葉を交わし、変わった様子や困っていることはないか気遣う。そんなごく当たり前のことが土台になる。

それは、子どもの虐待だけでなく、高齢者への虐待を防いだり、一人暮らしのお年寄りが孤立しないようにしたりするためにも欠かせないことだ。おせっかいなくらいの方が、関心を持とうとしないより、ずっといい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

